

令和8年度

藍住東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 生きる力を育む教育の推進
- ・主体的かつ協働的に学ぶことのできる生徒の育成
- ・教職員としての専門性の向上
- ・生徒一人一人を大切にす教育の充実

校長

村岡 文英

学力向上推進員

村岡文英(校長) 木下臣仁(教頭)
谷明美(教頭) 赤穂英樹(1年主任)
北原雄大(2年主任) 坂東侑樹(3年主任)
飯富雅彦(教務・研修主任) 片倉祥輝(学力向上)

【各校の取組状況の把握について】

管理職・教職員による授業参観や報告等、様々な機会を捉えて、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○比較的落ち着いて授業に取り組むことができ、タブレット端末を活用して調べたり、まとめたりすることができる生徒が多い。 ●学習習慣が定着していない生徒が少なからずおり、知識を習得することに留まっている。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ・既習の内容と新たな学習内容を関連づけて考え、教科間で運動させたり、生活の中で活かしたりできる。	・身につけた知識等を表現するために、説明や発表をさせる活動の機会を多く取り入れ、具体的な達成目標をもたせる。 ・音読に意欲的に取り組み、長文を読むことに慣れ、文章を早く正確に読み取ることができる学習活動を充実させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の読書タイムや朝学習の時間から、集中して読書や課題に取り組むことができている。 ●課題意識をもって学習に取り組み、必要な情報を取り入れてまとめたり、新たな考えを導き出したりすることに課題がある。	・話し合い活動を行うなかで、他者の考えや新たな知識を取り入れ自分なりの考えを深めたり、修正したりすることを通して、課題解決の方法を表現することができる。	・ペアやグループでの学習を効果的に活用する。生徒一人ひとりの聴く力を育成し、相手の考えを理解しながら対話できる態度を養う。 ・思考力・判断力・表現力を問われたときに、答えようとしないう・答えられない生徒を減らすために、段階的に課題の難易度を上げていくなど小さなステップを設けるようにする。また、答えようとする過程を評価する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科で与えられた課題に対しては、真面目に取り組むことができる。 ●学習に対し受け身な生徒が多く、不得意な学習内容に対しては、自ら課題を見つけ目標を設定し主体的に学習に取り組める生徒は少ない。	・テストの振り返りや単元の振り返りを実施し、自主学習ノートを効果的に活用して、既習事項の確認を主体的に行い、自分の苦手を自覚し、わからないことを理解しようと努力することができる。	・各教科において育成をめざす資質・能力の明確化を図り、それらを育てるよう授業改善を進める。同時にテストや単元の振り返りの方法の更なる改善を図る。 ・自主学習ノートをワークや問題集の解答欄として使うなど自主学習の仕方の指導に重点をおく。			